



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	鶴ヤマムラ倉庫様 吉田27号倉庫	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.7	/5	がんばろう
"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)	2.4	/5	がんばろう
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.0	/5	よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5	ふつう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 例 4 点以上	よい 4 点以上	がんばろう 3 点以上
		ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

内訳対応項目

重点項目	得点	内訳対応項目
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)	2.7	
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④主要な用途上位3種にB以上を使用しEは不使用 ④受水槽(FRP)の更新必要間隔は25年	Q-1 2 Q-1 3 Q-2 2	2.1 2.1.2 ① 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ 外皮性能 星光利用設備 星光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤緑地づくりを行い自生種シラカシ、ドウダンツツジが現存	Q-3 1 3	3.2 ⑤ 3.2 ⑥ 生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1 1 2 3 4	1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 ⑩ 建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 モニタリング 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型機器(節水型便器)を用いている。 ⑬発泡剤不使用。(グラスワール断熱材)	LR-2 1 2 3	1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ 節水 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 既存建築躯体等の継続使用 躯体材料におけるサイクル材の使用 躯体材料以外におけるサイクル材の使用 持続可能な森林から産出された木材 部材の再利用可能性向上への取組み 有害物質を含まない材料の使用 消火剤 断熱材 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 1 2	2.2 ⑭ 2.2 ⑮ 地球温暖化への配慮 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしづおか"の形成(Disaster)	2.4	
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2	2.1 ⑯ 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑯ 2.4.2 ⑯ 2.4.3 ⑯ 2.4.4 ⑯ 2.4.5 ⑯ 耐震性 免震・制振性能 空調・換気設備 給排水・衛生設備 電気設備 機械・配管支持方法 通信・情報設備
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	4.0	
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間の中とり) ⑳各階高は5.6m以上	Q-2 1 3	1.1 ⑱ 1.1.3 ⑲ 3.1 ⑲ 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ ユニバーサルデザイン計画 階高の中とり 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯性に配慮している。	Q-3 3	3.1 ㉑ 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	3.0	
■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 2 3	1 ㉒ 2 ㉓ 3.2 ㉔ 生物環境の保全と創出 まちなみ・景観への配慮 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善)	LR-2 2 LR-3 2	2.5 ㉕ 2.2 ㉖ 持続可能な森林から産出された木材 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要	
建物名称	株式会社ヤマムラ倉庫様 吉田27号倉庫
建設地	静岡県榛原郡吉田町川尻字901-1
用途地域	市街化調整区域、法22条地域
地域区分	7地域
建物用途	工場,
竣工年	2026年11月 予定
敷地面積	9,618 m ²
建築面積	5,660 m ²
延床面積	14,612 m ²

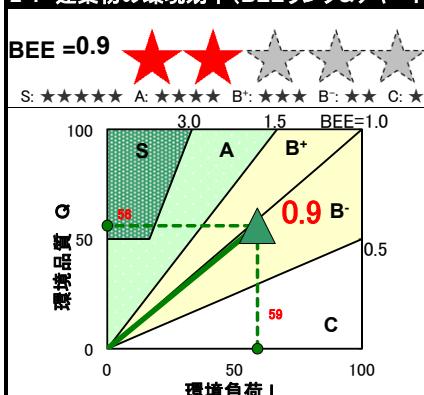
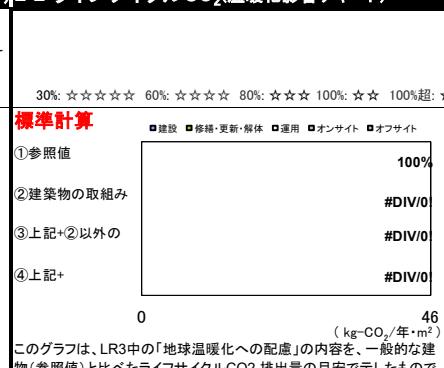
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

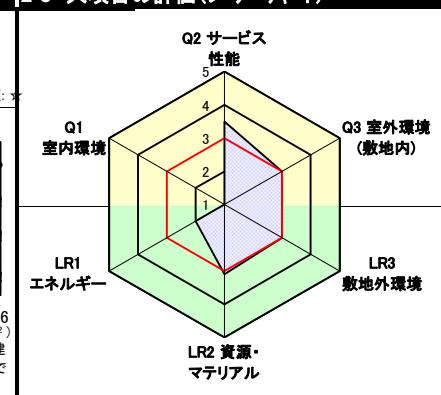
1-2 外観



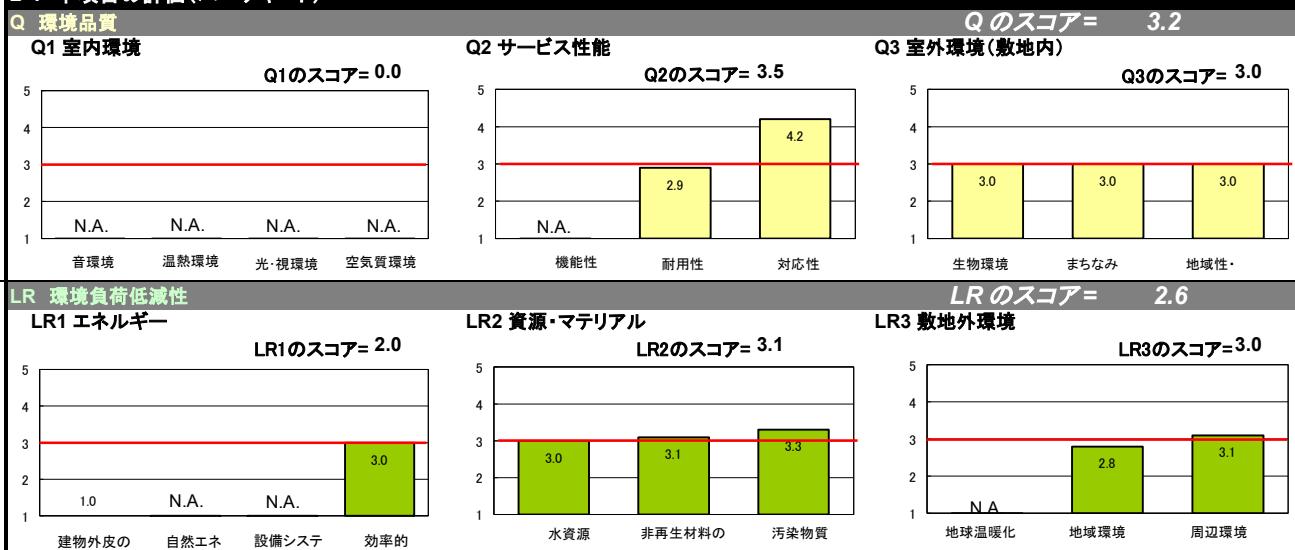
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合

これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果である。

その他

株式会社ヤマムラ倉庫は、物流施設やニーズに応じた事業空間を提供することで、企業の発展や地域貢献・活性化を目指す会社です。

Q1 室内環境

対象外である。

Q2 サービス性能

各階高は5.6m以上である。
1階の壁長さ比率0.051であり空間にゆとりを持たせた。
倉庫の床荷重は15000N/m²であり、建物の荷重にゆとりを持たせた。

Q3 室外環境(敷地内)

庇を設けており、且つ視線を遮らず防犯性に配慮している。

LR1 エネルギー

-

LR2 資源・マテリアル

S造のため解体が容易である。
省水型機器(節水型便器)を用いている。

LR3 敷地外環境

従業員数に対して十分な駐車場を確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される